



春の気配を感じる飛島から、『THE TOBISHIMA TIMES』vol.6をお届けします。雪も解け、島では安全確認や情報発信など、季節の移り変わりに合わせた準備が少しずつ進んでいます。今号では、そうした日々の取り組みや春のひとこまをご紹介します。

初夏の飛島を彩る花 — トビシマカンゾウのポスター

トビシマカンゾウを中心に、島の花の魅力を紹介

3月、トビシマカンゾウを中心としたポスターが完成しました。このポスターは、島民の方からの「飛島の花をもっと知ってもらいたい」という声をきっかけに、私自身がデザイン・制作を行ったものです。

昨年、トビシマカンゾウについてお話を聞かせてくださった島民の方がおり、実際にトビシマカンゾウを使った料理や参考資料なども見せていただきました。お話を伺う中で、この花が飛島の暮らしと深く関わってきたことを知り、観光で訪れる方にもその魅力を伝えられないかと考えるようになりました。

トビシマカンゾウは、飛島と佐渡島にのみ生育するとされる花で、飛島では初夏を代表する花として島民に親しまれています。ポスターでは、このトビシマカンゾウを中心に、春から夏にかけて島で咲く花々も紹介し、飛島の自然の魅力を感じてもらえる内容としました。

なお、トビシマカンゾウの生育地などの詳細についてはガイドマップで確認していただくことを前提とし、ポスターは観光で訪れた方が飛島の花に興味を持ち、楽しみながら知っていただくきっかけとなることを目的に制作しています。

現在、このポスターはマリプラザに掲示されています。飛島を訪れる方々には、ぜひ足を止めてご覧いただき、これから始まる花の季節を楽しんでいただければと思います。

初夏、島がいちばん輝く。



瀬戸内海の島
トビシマカンゾウ
開花時期：6月～7月

4月から8月へ 花が季節をつないでいく。

4月	5月	6月	7月	8月
				
サクラ 4月	ハマエンドウ 4～7月	スカシユリ 6月	カワラナダシコ 6～7月	オニユリ 8月

トビシマカンゾウと、
飛島の暮らし

この花は、飛島の暮らしとともにありました。



- 芽** のびはじめた若芽は、味噌和えなど、春の味として食されました。
- 花** 咲いた花びらは、ていねいに塩漬けにされました。
- 葉** 張りのある葉は編まれ、草履へと姿を変えました。
- 茎** 乾いた茎は、焼き付けなどに使用されました。

季節とともに生きてきた花は、いま、飛島で大切に守られています。どうか、見るだけで、その美しさを、そっと心に残していただけたら幸いです。

避難路の状況確認と倒木対応

雪解け後の安全確認を行いました

3月中旬、センターでは雪解け後の避難路の状況確認と倒木除去作業や手すりの修理を行いました。避難路については、普段から通行の際に状況を見ることもありますが、雪も落ち着いたこの時期に、とびしま総合センターとして全体の通行状況を確認することになりました。

今回はセンター職員で手分けをして各地区の避難路を確認し、私は法木地区の避難路を担当しました。確認の結果、全体としては概ね通行可能な状態でしたが、一部には個人では対応が難しい倒木が見られ、破損している手すりも確認されました。

また、他の職員が確認した勝浦地区でも同様に倒木や手すりの破損が確認されたため、翌日以降に対応することになりました。

倒木の除去作業は、市職員および消防職員がチェーンソーを使用して実施しました。手すりの修理については消防職員に対応していただき、安全に通行できるよう補修していただきました。

普段は問題なく通れる道でも、季節や天候によって状況が変わるため、改めて定期的な確認の大切さを感じました。



春の送別会とあたたかなひととき

出会いと別れを感じる季節

3月中旬、今年度で飛島での勤務を終えられる市職員の送別会が行われました。送別会には職員に加え、看護師の方や島民の方々も参加され、飛島らしい庄内弁が飛び交う、にぎやかであたたかな時間となりました。こうした集まりでは、普段の業務の中ではゆっくり話す機会が少ない方とも会話ができ、それぞれの人となりを知り知る機会にもなります。賑やかな空気の中にとると、不思議と安心感を覚える場面もあります。

また別の日には、今月誕生日を迎えられた市職員の誕生日会が沢口旅館で開かれました。こちらは比較的若い世代が集まり、全体的に明るく軽やかな雰囲気の中で会話が弾みました。この誕生日会では、腕相撲や指相撲で勝負を始める場面もあり、私がタロットカードで希望する方を占うなど、会話だけでなくさまざまなやりとりが行われました。

市職員や消防職員は飛島での勤務期間が決まっているため、毎年こうして出会いと別れがあります。島を離れる方には、新たな場所での活躍を願うとともに、またどこかでお会いできることを楽しみにしています。



月刊誌「コロンブス」、飛島での活動を掲載

島での取り組みを外部媒体で紹介いただきました

3月発行の地域経済情報誌 月刊コロンブス に、飛島での活動について掲載していただきました。

記事では、飛島で取り組んでいる体験型企画や情報発信、環境整備のほか、定期船が22日間連続欠航した際の対応についても触れていただいています。

取材では、飛島での活動を始めた経緯や、島で感じていること、今後の展望などについてお話ししました。普段の活動は島内で完結するものばかりではありませんが、このような形で外部にも飛島の現状や取り組みを知っていただける機会になったことをありがたく感じています。

記事の中では、飛島の自然や暮らし、地域の課題にも触れられており、改めて飛島が持つ特徴や魅力を客観的に見つめる機会にもなりました。

今後も、地域の中で積み重ねていることを、必要に応じて丁寧に発信していければと考えています。



酒田市地域おこし協力隊 成果発表会

1年間の活動を振り返り、今後を考える機会に

2月20日、酒田市役所にて、酒田市地域おこし協力隊の成果発表会が行われました。発表は一人3分、質疑応答も3分という短い時間で行われ、各自がスライドや動画を用いて、この1年間の活動内容を紹介しました。

2026年2月時点で、酒田市の地域おこし協力隊は私を含め6名おり、着任順での発表だったため、私は最初の発表者となりました。

私にとって今年度は、体験型観光の実証と情報発信による可視化を進めた一年だったと感じています。そうした一年を踏まえ、「飛島の魅力を体験として可視化する取り組み」を中心に、島内の環境整備や、定期船が22日間連続欠航した際の情報発信などについて、概要をお伝えしました。ただし短時間での発表だったため詳細には触れきれず、これまで発行してきた「THE TOBISHIMA TIMES」、SNSやラジオ、各メディアによる取材内容等もあわせてご覧いただければとお伝えしました。

その後の他の協力隊員の発表を通して、それぞれが異なる分野で地域と関わっていることを改めて知る機会となりました。地域おこし協力隊は担当するミッションによって活動内容が大きく異なりますが、今回の成果発表会でそれぞれの具体的な取り組みを知り、酒田市内でも多様な形で地域と関わる動きがあることを実感しました。

一通り発表を終え、私自身も改めてこの1年を振り返りましたが、過ぎてしまえばあっという間だったと感じます。飛島島内だけでもさまざまな出来事があり、さらに本土との往来を含めて進める場面も多かったことから、幅広い人とのつながりを築く機会にもなりました。

来年度は、地域の力につながる継続的な仕組みへ発展させていくことを目標に取り組んでいきたいと考えています。



※画像は、阿部彩人 (COCOSATO) Youtubeチャンネル「令和7年度 山形県酒田市 地域おこし協力隊 活動報告会 (2026年2月20日 酒田市役所)」より引用。

<https://www.youtube.com/watch?v=jOM-yRIMlr0>